

南山の風

南山寮にニューアル 全館クロス張り替え工事

現在の南山寮の建物が経って17年が経ち、建物のあちこちに経年劣化による不具合が生じてきました。子どもたちの生活環境を少しでも落ち着いた空間に変えるべく、建物内の全ての部屋の壁紙を張り替える工事を実施しました。紹介する画像は、子どもたちが、工事の業者さんのお手伝い…ではなく、今までお世話になった古い壁紙に、これもでかというくらいのド派手な落書きを正々堂々と楽しむ様子です。

夕食会で本格手打ちそばに挑戦!

6月20日、楽しみにしていた夕食会がはじまりました!
4月からおやつも自分たちで作りはじめ、料理が大好きな子どもたち、夕食会で何を作ろうか話し合った結果『そばを作りたい』という意見にみんな大賛成。夕食会まえから作り方を調べるなど、ワクワクしながら夕食会の日を迎えました。材料が届くと早速「やりたい!やりたい!」と全員集合。そば粉、小麦粉をまぜこねこねを始めます。小学生は力いっぱいこねますが、なかなか固まらず… 厨房のお兄さんも手伝ってくれて上手に形になりました。そば打ちも一言もしゃべらず、真剣に打ちます。細くて長いもの、短くて太いものなど、個性的なそばが完成しました。そばゆでは、中高生が率先してやってくれて、みんなで協力して楽しく、美味しく作ることが出来ました。そば打ちは大成功です☆ (文責: 2F 指導員 林大介)



ピワジャム作り

ピワの旬は5月〜6月
とされています。南山寮
の厨房前にあるピワの木
も沢山の実をつけて旬の
時期を迎えました。



ピワの枝を切り落と
し、みんなでピワのみ
を集めます。大きな葉
っぱに大はしゃぎ！
いつも見上げていたピ
ワの実がついた枝を持
って楽しくお手伝い。

せっかく沢山の実ができ
たのだから、楽しく食べたい
という子どもの声から
ジャム作りをすることに
なりました。



こんなにたくさん取れまし
た！大きなザルにいっぱい
のピワの実を集めてくれまし
た。

1つ1つ手作業で下ごしらえ
をしたのち、厨房の先生がジ
ャムを作ってくれます。

みんな集まっつての、ピワの
実集め。あまりない体験で
子どもたちも楽しく手伝
ってくれました。スーパ
ーで売っている形とは違い



完成しました！子どもから
大人からも、「おお〜」「すご
ーい」「おいしそう」と歓声が
聞こえました。

枝が付いたままのピワに
感激していました。そして
何によりた食べる時に最



この時を、待っていたと言
わんばかりの大人気！
クッキーやビスケットに
つけていただきました。
みんな「おいしい」と言い
あつという間に完食！

高の笑顔を見せてくれま
した。こういった機会がも
つと増える事を望んでい
ます。(文責：妹尾善之)





サボテンいっぱい驚いたツツ♪
 白いアジサイってあるんだねツ♪

子どもサロン

みんなで動植物園に行きました

低学年1〜3年生の子どもたちと、東山動植物園に行ってきました。朝から職員、こどもたちと協力をしてお弁当を作り、お弁当箱におかずをつめてとてもおいしそうですねお弁当ができました☆



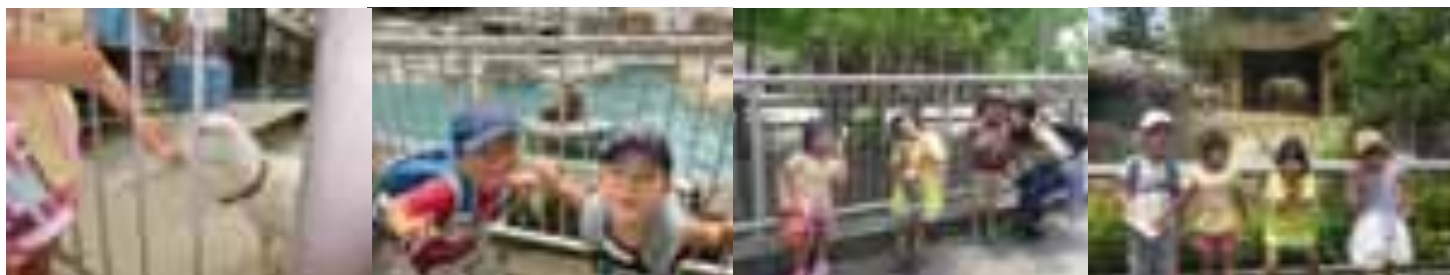
お弁当箱の中身は、おにぎり、ハムチーズ、卵焼き、トマト、ブロッコリーでした。お部屋ごとに、キャラクターおにぎりにしたり、卵焼きにチーズを入れたり、それぞれに個性が溢れていました。ニコニコの笑顔でお腹いっぱい食べました☆

ぞうさんにアシカさんにヤギさんにライオンさんにたくさん動物と触れ合えてとっても楽しい一日でした。途中、帽子がなくなるというアクシデントもありましたが無事に見つかり、へとへとになりましたが充実した子どもサロンになりました☆ (文責…保育士 黒田純子)

きれいな花がさいていたよ♪
 かわいいかわいいお花だったなあ♪



ボート楽しかった!!!!
 浮き輪から顔を出してみたよっ♪



八事枋中ふしぎ散歩 ④ 溜池からの水路の痕跡？

南山寮には、明治末期もしくは大正初期に隼人池方面を撮影した写真が残っています。実はこの写真には「新池」というもう一つの溜池が写っており、その溜池を埋め立てた跡地は日本福祉大学の旧キャンパスがあったあたりと推察されます。かつて、この新池から、五軒家町経由で山崎川に至る水路が引かれていました。その水路は、五軒家の水田に水を引くため、そして山崎川に入った水を南区あたりの水田に引くためのものでした。枋中郵便局の西50mのところ、かつてこの水路に掛かっていた石橋の欄干がそのまま残されています。前々から不思議に思いながら通行していましたが、何気なく通り過ぎてしまう風景の中にも歴史があり、先人たちの日々の暮らしを思い起こすことができるのですね。



コラム 南山隼人 「さんぽ」と「いやいやえん」

スタジオジブリ製作のアニメ映画で、子どもたちに絶大な人気を誇っているのが『となりのトトロ』だ。トトロのテーマソングと言えば、「あるこう あるこう わたしはげんき♪」という出だしで始まる「さんぽ」という歌。幼い頃、あるいは子どもと一緒に元氣よく歌ったことがある方も多いのではないだろうか。

実は「さんぽ」という歌には、モデルになった道がある。「さんぽ」の作詞をした中川季枝子氏が、幼少期に歩いた福島県の信夫山のイメージを思い出しながら書いたとのこと。「さんぽ」の歌詞には、さまざまに自然の風景が登場する。「くわっぱら」「でこぼこ砂利道」「はなはだけ」「くもの巣」など：歌詞をよく読むと、だんだんと森の奥へと進んでいく様子が描かれており、最後は「ともだち たくさん うれしいな」と締めくくられている。「この」ともだち」とは、さんぽの途中で出会った虫たちや草花であろう。

この信夫山の放射線測定値は、0.5マイクロシーベルトを越えている。愛知県（0.05マイクロシーベルト）のおよそ10倍と、依然として高い水準にある。子どもたちの大好きな「さんぽ」発祥の地が高い放射線量にさらされ、歌のように元氣な「おさんぽ」が安心して安全にできない現状を思うと、やるせない気持ちになる。

さて、中川季枝子氏は「さんぽ」の作詞者としてだけではなく、童話作家としても高名である。50年以上も前に出版され、今もなお現役で子どもたちに愛され続けている『ぐりとぐら』や『いやいやえん』は中川氏の作品である。出版された当時、まだ学生でアニメーターになると決めていなかった宮崎駿氏は、『いやいやえん』は衝撃だった。アニメーションにしたいとそう思いました。」と語っている。さらに宮崎氏は、「僕たちが作るファンタジーでは、冒険に出て、いろんな経験をして、成長して帰ってくるけど、そんなの嘘ですよ。子どもは同じ間違いを繰り返すし、それをしていいのが子ども時代であって、そんな子どもそのものの姿が描かれているのが『いやいやえん』や『ぐりとぐら』だと思っ。」と作品の魅力を熱弁。中川氏のファンだった宮崎駿監督が「となりのトトロ」を製作した際、「映画を離れても、子どもたちが口ずさめる歌を書いて欲しい」とテーマソングの作詞を中川氏に依頼したという経緯がある。

長年にわたって創作活動を続ける一方で、保育士として働き、直に子どもたちと接してきた中川氏は、「子どもの問題が社会を賑わせていて、ひどい目にあっている子どもが多すぎるんじゃないかと胸を痛めている」と最近の子どもたちを取り巻く環境を憂慮する。「日本には『児童憲章』というものがある。『児童は、人として尊ばれる。児童は、社会の一員として重んぜられる。児童は、よい環境のなかで育てられる。』この三原則を守ってほしい」と訴え続けている。（リョウチョウ）

平成27年 7月号
(月刊：毎月1日発行)

＜明治19年10月 第三種郵便物無認可＞

発行：社会福祉法人 愛知育児院
児童養護施設 南山寮

編集責任者： 施設長 山田 勝己

〒466-0835 名古屋市昭和区南山町5番地

TEL (052)831-3750 FAX (052)835-7483

e-mail: nanzanryo.1909@space.ocn.ne.jp